てコスズモドキ節 (Nanopseudosasamorpha) を新設した。私は今までナンブスズ節を採用し，スズモドキ節とコスズモドキ節をそれに統合した。長年にわたる研究の結果，スズザサ属はササ属とスズダケ属の中間型を示すが，二属とはっきり区別できるまとまりがあることがわかり，スズザサ属は独立した分類群として扱うべきであるという結論に達した。ササ属では稈鞘の葉片は卵形で，先はやや短くとがり，また枝がでるとき，稈鞘は外側へ軽くおしやられるだけか，または枝で貫通される。それに対してスズザサ属では葉片が細く，線形または披針形で先が尾状に長くとがり，また枝がでるとき，稈鞘は基部中央だけが節につき，本体は節間から離れて枝の基部を固く包む（スズダケ属と共通)。この形質は環境に支配されず，どんな場合でも，それだけでササ属とは一見して区別できる。*Neosasamorpha tsukubensis* (ツクバナンブスズ) の亜種 (subsp. *pubifolia*) の和名としてはケバノカシダザサを用いるのが成り行きであるが，本文にあるとおり，ハコネナンブスズの亜種としてカシダザサ(葉に毛がある)や，オオシダザサの亜種としてケナシカシダザサがあるので違和感がある。私は *Sasa motidzukiana* Koidz. (イナコスズ) をケバノカシダザサのシノニムとして処理しているので (Suzuki 1978), subsp. *pubifolia* の和名としてはイナコスズを起用した方がよいと考える。

□大谷吉雄：**伊藤誠哉 日本菌類誌**，第三巻子のう菌類，第二号ホネタケ目・ユーロチウム目・ハチノスカビ目・ミクロアスクス目・オフィオストマキン目・ツチダンゴキン目・ウドンコキン目 (Otani, Y.: Seiya Ito's mycological flora of Japan, Vol. III Ascomycotina, No. 2 Onygenales•Eurotiales•Ascosphaerales•Microascales•Ophiostomatales•Elaphomycetales•Erysiphales) 310 pp. 1988. 養賢堂，東京. ¥8,500. 故伊藤誠哉博士によって企画された日本菌類誌は，1936年に第一巻藻菌類（鞭毛菌類・接合菌類）が刊行され，第二巻担子菌類は第二次世界大戦をはさんで第一号(1936)～第五号(1959)として完結した。続いて第三巻子嚢菌類は第一号酵母菌目・クリプトコックス目・外子嚢菌目が1964年に出版された。伊藤博士なきあと，今回「伊藤誠哉 日本菌類誌」としてこの偉業が継続されたことは，感謝にたえないところである。形式はこれまでのものを踏襲し，綱から種までにわたって本邦既知分類群についての検索表と記載と分類学上のコメントを載せ，多くの線画のほか，適宜に顕微鏡写真や電子顕微鏡写真が添えられている。巻末に充実した各種索引があり，付表として有性時代と無性時代の関連表があるのもたいへん有益である。たんに菌学や植物病理学のみならず，我が国の生物学および関連分野の基礎文献として本書の意義は計り知れない。全巻の完結が切望される。 (三浦宏一郎)